

地球の反対側にあつたもの

福 田 遥 生

筑西市立下館南中学校 三年

ハロー。オラ。ボンジュール。ボンジョルノ。ニーハオ。アニヨハセヨー。ナマステ。私がアメリカで知り合った友達のあいさつです。

私は、昨年一年間、アメリカで生活していました。

「アメリカでの生活を通して、経験したことはなんですか?」

学ぶことができました。このことは、私の経験値を高め、とても充実した一年間になつたと、今改めて感じています。たつた一年間でしたが、得たものがたくさんありました。そこで、私が感じた日本とアメリカの大きな違いを二つ挙げたいと思います。

よく友人からこの質問をされますが、私は、いろいろな国の人と出会えたことが、最も大きな経験になつたと感じています。

アメリカに行つた当初、友達ができるか、これからここで本当に生活していくのか、不安でいっぱいでした。しかし、アメリカでの生活を通して、英語を学んだことに加え、さまざまな国の人と出会い、さまざまな文化について

一つ目は、人種や文化の違いです。アメリカの学校は、顔、目、髪の色がさまざまな学生が共に学校生活を送っています。アメリカは、「人種のサラダボウル」と呼ばれるくらい、多種多様な人々がいます。歴史の授業でアフリカ系の人を差別したり、ユダヤ人を迫害したりと、人種差別の実態があることを知りました。そして、その人種差別はきっと、今もなお、この世界のどこかで続いていることでしょう。しかし、私の通っていた学校は見た目の異なる人同士が差

別をしたり、偏見をもつたりすることもせず、互いを仲間として認め、笑顔で接していました。また、食事のときには、母国の料理を食べていたり、あるいは母国の中文化を重んじ、手でつかんで食べていたりと、食生活だけでも大きな違いがありました。そんな環境で生活しているとき、私はある詩人の言葉を思い出しました。「みんなちがって、みんないい。」これは、一度は誰もが耳にしたことのある言葉でしょう。金子みすゞさんの作品に出てくる一文です。その作品にある通り、私たちは同じ顔、同じ声をしている人などいません。みんながみんな、違った特徴や個性をもっています。みんな違っているけれど、それでいい、ということを私はアメリカでの生活を通して、身をもつて感じることができました。

あらゆる人と接し、触れ合い、異なる文化を知り、認め合うことで、差別をすることのない素晴らしい人間関係を築くができるのではないでしょうか。そうすることで、自分の視野も広がり、さらには今まで知ることのなかった新たな世界を知るきっかけにもなることでしょう。この世界から見た目や文化、思想などの違いから生じる差別がなくなり、誰もが堂々と生きることのできる、平和な世界が実現されることを願っています。

二つ目は、人との接し方です。みなさんは、スーパーなどに買い物に行つたときに、顔見知りでない人に話しかけられたことがありますか。恐らくほとんどの人は「ない」と答えることでしょう。しかし、アメリカの場合、バスや野球場などでたまたま隣に座った人、スーパーなどでたまたま後ろに並んだ人など、みんなが気軽に話しかけてくれます。アメリカの人たちはみんなフレンドリーで、顔見知りでない人とでも気軽に会話を楽しむことができるのです。日本でも、そのようにさまざまな場所で、さまざまの人と関わる機会をもてば、交友関係が広がり、助け合ったり、励まし合ったりする関係を築くことができるのでないでしょうか。

地球の反対側にいるだけで、こんなにも文化や考え方、生活の仕方が変わるのだということを知り、他国の人々を理解し、認め合うことの大切さに気付く、実りの多い一年となりました。

日本とアメリカに限らず、この世界には、たくさんの国、人々、文化が存在しています。自分が生まれ育った国の良さを感じつつ、他国の良さにも目を向け、誰もが互いに尊重し合うことのできる、明るく幸せな未来になることを心から願っています。